

「行きつけ」のお店って、ありますか？

私には、二十年来行きつけの床屋さんがあります。三回引越しをしたけれど、その都度新しい街からその床屋さんへ通っています。

家族・学校・会社、と云った関係性とは全く違う場所が「行きつけ」のお店。親でも先生でも、上司や同僚でもないのに、いわば赤の他人なのに、私の事を知っている人が、そこにいる。家族にも云えない事をここでなら話せちゃったりして・・・真つすぐ家に帰るのではなく、「止まり木」にちよつと寄り道。

私も、マスターと云う職業を通して一人でも多くの方とそんな関係を築いてみたいな。朝日村でそんなお店を目指しています。

以下、次号。 (児玉 理)

カフェ・シュトラッセ  
http://kaffee-strasse.blog.ocn.ne.jp/



朝日村つくりびとのブログも見てみてくださいね!  
<http://asahinobijyutsukan.blog136.fc2.com/>  
夜のさんぼのバックナンバーもこちらから読めます!



2号目です。

「夜のさんぼ」は長野県朝日村に住む創っている人が作っているフリーペーパーです。

第一号が先月発行になりました。市民タイムスさんとタウン情報さんに記事としてとりあげて頂きました。最近、村の作り手さんと交流が増えてきました。今まであまり繋がる事のなかった人たちと繋が

また次号も、ぜひ宜しく願います。(感想、お待ちしております)

これからとお知らせ

☆個展が開催されます。どうぞ宜しくお願いします。

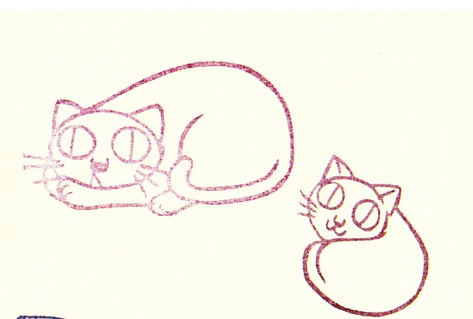
下田ひかり個展  
「この星の子ども」  
3月26日(月)～31日(土)

銀座ヴァニラ画廊  
<http://www.vanilla-gallery.com/>



■住所 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-10-10 第2 蒲田ビル 4 階  
■TEL&FAX 03-5568-1233  
■営業時間 平日 12 時～ 19 時 土曜・祝日 12 時～ 17 時 日曜休廊

今月のはんこ 



[hankoya.noraneko@gmail.com](mailto:hankoya.noraneko@gmail.com)

# 夜のさんぼ

朝日村の創っている人が作っているフリーペーパー

2012 年 2 月号

このフリーペーパーを創っているひとたち

藤牧 敬三 (クラフト) / 下田ひかり (現代美術) / 児玉 理 (自家焙煎珈琲) / やざきなおみ (消しゴムはんこ)  
表紙の写真 / 百頭たけし (web 写真家) HP 山ヲ煮ル・・・<http://d.hatena.ne.jp/hyakutou/>



木って...

昨年末の深夜、あるテレビ番組で 白神山地のブナの森のことが取り上げられていた。

ブナの葉は葉っぱどうしが重ならないように 晴れの日は太陽に向かって光合成し養分を蓄え 雨の日は葉が受け皿となり雨水を枝から幹・根元へと効率よく水を蓄え強靱な根を作り 更に余った水は山全体に貯水され時間をかけて浄化され豊かな地下水を生み出すという。

因みに杉や松のような針葉樹だけの森と比較すると数倍の貯水量があるという。如何に広葉樹の森が豊かな循環を生み出しているかを察することができる。(当然、土壌の質や地形環境の要素も大きい) 針葉樹だけの森は広葉樹林に比べ雨水を蓄えにくく 雨水が川となって浄化されにくいまま海に流れることになる。)

元々の原生林は 色々な樹種の木・植物がバランスよく混在し 豊かな森を形成していた。在る時期、成長の早い針葉樹を人為的に植林し偏った植生を作ってしまった付けは 想像以上に大きく 大雨による山の崩落や動物の生息にまで影響を及ぼしている。

(因みに針葉樹の森に広葉樹を植林し直したとしても成長が思わしくないとのことである。広葉樹が生み出す腐葉土は森の土壌に多大に栄養を与えていると推測される。)

これまでの話だけだと 針葉樹が残念な木という印象になってしまふけれど 全くそうではなく 偏った植生は自然のアンバランスを生み 豊かな循環が途絶えてしまふ原因になるということだろうと思う。

さて 木を素材としてそれを扱う仕事をしていると 木って何 木の良さって何 と考えることがある。よく 木って温かいね とか呼吸をしている とかゆうけれど冷静に考えてみると 木の種類によって冷たく感じる木もあるし 加工の仕方・塗装の仕方によって素材の印象や触れた感覚は全く違ったりする。 また一度

切られ加工された木が 呼吸する ことは無く 正確には空気中の湿度を木が水分調整してくれるとても柔軟な天然素材という表現のほうが適していると思う。

鉋をかけた艶のある木が綺麗で最高と感じる人もいるけれど 僕は日に当たり雨風にさらされ捨てられるような木を見ていると とても愛おしく 木らしい木 と感じる時がある。また昔の職人が作った長年使われてきた経年による磨耗と程よい艶がある木を見ると 木っていいな と感じたりする。

最近そういう直感的な感覚がとても大事だと思っていて ただ丈夫でデザインの良い家具を作るだけでなく素材感や人に与える印象も大事にしたいし それを作品づくりに反映させたいと思っている。

木という魅力的な素材の有難さや尊さを感じながら せめて木が成長し生き続けてきた年月分は全うする木工品であるべきだし 永く愛おしく感じる家具を丁寧に作り続けたい。

今回は 実際の作品制作について触れてみたいと思います。

(藤牧敬三)



スタイル・ガレ <http://www.stylegalle.com/>

## おいてきぼりだった感情

先日、「岡本太郎美術賞」という現代美術の公募展を見てきたが、見てすぐこれと判る「意味」や「表現」に特化した作品よりも(新しい「意味」や「表現」を考えることが現代美術の重要課題ではあるけれど)、それを凌駕するパワーや「今これを作らねばならない」という焦燥感や作家の感情、そういったものが大きく現れている作品ほど魅力を感じた。

現代美術は、最近まで「意味」や「表現」を重視して、感情は置き去りにされてきた。今、こういう世界にあつて、若い世代が必要として生み出そうとしているもの、現代において新しいものは、実は「感情」なのかもしれない。

私たち20代や30代は、身近に漫画やアニメを見て育ってきた世代で、「絵が好き」=「漫画やアニメの真似をして描く」事がとても自然に身につけている。そういう絵柄の、いわゆる「イラスト」と呼ばれる絵は、ここ最近特に現代美術の若手作家の作風にも多くなっている。この、「イラスト」というものにおいて、一番重要な要素は何かという事をずっと考えていたが、これもまた「感情」が重要なキーワードなのではないかと思う。私たちの世代が身につけてきたイラスト表現は、表面的なキャラクターなどではなく、画面を通して自分の感情を相手にダイレクトに伝えられるという点が重要なのではないか。

日本は今大変な苦境にあり、特に若者に対しては逆風吹き荒れる、といった状態で、ただひたすら耐えるしかなく、そんな中で自分たちが少しでも何かを言いたい、そう思う表現の一つが慣れ親しんできた漫画やアニメであり、たまりに溜まった鬱屈を紙に落とし込み、自分の作品として昇華させていく。

現代美術は、今生きている人たちが作る芸術であり、自分たちのアイデンティティを認めて貰うための戦いである。

社会から抑圧され、声を上げることができなくなっている私たちの声にならない感情が、私たちの武器となつて、今世界から認知されつつあるのだと思う。

(下田ひかり)

<http://hikarishimoda.com/>

